
2023 年度

（令和 5 年度）

事業計画書



2023 年 4 月 1 日より 2024 年 3 月 31 日まで

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

2023 年度事業計画策定にあたって

2022 年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響がある中での事業展開となり、感染症対策を徹底するとともに参加者の規模を縮小したプログラムを実施するなど、設立時より大切にしてきた、障害の有無に関わらず、誰もが人格と個性を尊重し支えあう「共生社会」の実現に向けて、試行錯誤を余儀なくされた一年となりました。

当基金設立以来、継続して取り組んでいる「ふれあいの広場事業」では、スポーツや音楽等を通じて、障害の有無に関わらず共に参加し楽しむことのできるプログラムを開発し、自動車総連の全面的なご協力をいただきながら、新型コロナウイルス感染症予防に留意しながらも、より多くの方に参加いただける内容を目指し、全国33会場にて開催することができました。引き続き、感染症対策を考慮した新たなプログラムを充実させるべく努力を続けてまいります。

「ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ」では、延期していた千葉市内の障害者施設にて開催することができました。今年度においては、2020 年 7 月の豪雨にて甚大な被害のあった、熊本県人吉市の障害者施設での開催を目指し、言葉を越えたコミュニケーションの手法を知っていただけるよう取り組みます。

ニュースレターは 6、9、12、3 月に発行しています。当基金の活動内容や実施予定を記載し郵送、e-mail にてお届けをしています。また、ホームページにおいても掲載しています。

引き続きの低金利により、基本財産の運用が厳しい状況となっており、併せて新型コロナウイルス感染症の影響による経済状況等から、法人運営の財政的困難さが増しています。

したがって賛助会員や寄付者の募集活動をこれまで以上に取り組む観点から、ニュースレターおよびホームページの内容について検討してまいります。

多くの皆様のご理解とご支援のもと本年度の事業が展開できますよう、引き続きのご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

2023 年 4 月

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

1. ふれあいの広場事業

(1) ふれあいのスポーツ広場の実施

障害の有無に関わらず、軽スポーツを通じ、共に楽しみ、交流することを目的とし、当基金設立時より実施している事業です。1992年度以降は「全日本自動車産業労働組合総連合会（自動車総連）」より物心両面にわたるご支援をいただきながら、開催しています。

2022年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開催の延期、中止となった会場もありましたが、全国33会場で開催することができました。

2023年度は、ふれあいのスポーツ広場の意義・目的を踏まえつつ、感染予防対策を徹底しながら全都道府県での開催を目指します。

競技内容については、日本福祉大学の藤田紀昭教授を中心に、非接触で人との距離を保ちながら実施できるプログラムの開発を進めており、加えて密を防ぎ、換気や消毒を徹底するなど、スポーツ団体が規定するガイドラインに沿った運営に努めます。

また昨年度の実績と経験に基づき、試行錯誤しながらプログラムの内容を拡充していくための改善を行なって参ります。

引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、開催自体の延期・中止も視野に入れながらの準備作業となりますが、多くの関係者、ボランティアの皆様のご支援をいただきながら、全力で推進してまいります。

実施時期 2023年4月～2024年3月

開催地域 全都道府県を予定

開催数 全国47会場（予定）

共 催 全日本自動車産業労働組合総連合会

後 援 内閣府、スポーツ庁、開催都市、開催都市教育委員会等

協力団体 日本福祉大学

仙台ユニバーサルスポーツ研究会

（公社）日本エアロビック連盟

プログラム内容

日本福祉大学の藤田紀昭教授の監修の元、障害の有無に関わらず、誰もが共に参加し楽しむことのできる競技を中心に実施します。

また新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、非接触で人との距離を確保したプログラムを実施します。



競技内容（例）

☆風船シュート

・実行委員 4 人でネットを持ち、参加者の頭上を通過していく時に、参加者が椅子に座ったまま風船（小）とスティックバルーンをネットに投げていく。勝敗は、1 施設全員分の風船（小）とスティックバルーンがネットに早く入った方が勝ち。



☆風船パス

・参加者が円になって、その中心に距離を確保した実行委員がサポートに入りながら、風船（中）を落とさずにバレーボールの要領でパスを回していく。風船をついた回数の多い方が勝ち。



☆じゃんけんダンス

・インストラクター及び実行委員の進行で、ふりつけダンスとじゃんけんダンスを行う。じゃんけんダンスは、＜わきプレス 4 回＞→＜拍手 4 回＞→＜膝たたき 4 回＞→＜じゃんけんポン＞の順番で行なう。



☆スローエアロビック

・スローエアロビックは、シンプルで自然な動きを取り入れながら、カロリー消費ではなく、気分を好転させることを重視しています。音楽に合わせて楽しく体を動かすというエアロビックの本質的な魅力を、運動強度が低い運動へと裾野を広げようという考え方に基づいています。

※出典：（公社）日本エアロビック連盟 web ページ



新型コロナウイルス感染症予防に関する対策

新型コロナウイルス感染症に対する対策として、公益財団法人日本スポーツ協会のガイドラインに基づき各種対策を実施致します。

(1) 計画段階での対応

①感染者発生時の対応確認

開催決定後に感染者発生状況等により、都道府県及び自治体から開催中止の要請があった場合には、開催を中止する。

②会場との連携

会場との連携を密にし、必要な事柄に対して対応すると共に、当日の館内各所の消毒等の計画を把握する。また、定期的に窓を開け外気を取り入れ換気を行うなどの役割分担の調整を行う。

(2) 参加者・実行委員等の事前確認

①参加を見合わせていただく方

☐体調がよくない方（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）

☐同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

☐過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

②感染予防の徹底

☐全ての時間においてマスクの着用

☐手洗いの励行

☐アルコール消毒液は施設単位で配布

③名簿の管理

各参加団体において、参加する個人を正確に把握する。当日の変更などに特に留意する。体育館等の要請で、名簿の提出が求められた場合には、施設、実行委員の名簿のとりまとめを行い、提出する。

(3) 運営時における要点

①到着時における対応

☐各種車両にて到着の場合

到着された参加施設ごとに誘導する。入り口などでの密になる状況を避ける。

☐検温

会場入口において、非接触型サーモグラフィにて体温確認を行う。発熱がある場合には、入場をお断りする。

☐アリーナ入場時

参加施設ごとに、なるべく異なる入り口から入場をお願いする

☐靴の履き替え

密を避けるために、ブルーシートなどを用意し、選手席までは外履きで対応可能なように対応する。

②受付をおかない対応

☐感染予防の観点から、受付はおかず対応する。問合せなどは、ナイスハート基金の職員宛携帯電話にて行う。

☐参加施設ごとに選手席にて手指用アルコール消毒液を配布し、消毒の励行を依頼する。

③施設宛の配布物

□事前に施設宛に送付……Tシャツ、プログラム

□当日選手席にて配布……手指用アルコール消毒液、マスク、ごみ袋、ペットボトルの水

④選手席への誘導

□誘導する際は、十分な間隔をとることに留意する。

□選手席の設置は、施設間の間隔を充分とることに留意する。

⑤トイレ

□トイレ使用の際の手洗いを励行する。

□ドアノブなどの接触箇所の消毒を徹底する。

⑥更衣室

□極力使用しないよう努める。

□止むを得ず利用する場合は、他の参加者と密になることを避ける。

⑦選手席

□選手席は施設ごとに配置し、他の施設とは距離をとる。

□すべてイスを用意し着席いただく。

□施設ごとの選手席の間隔は、1.5 m以上とる。

(4) 競技時の要点

①開会式

□従来のように整列せず、選手席において実施する。

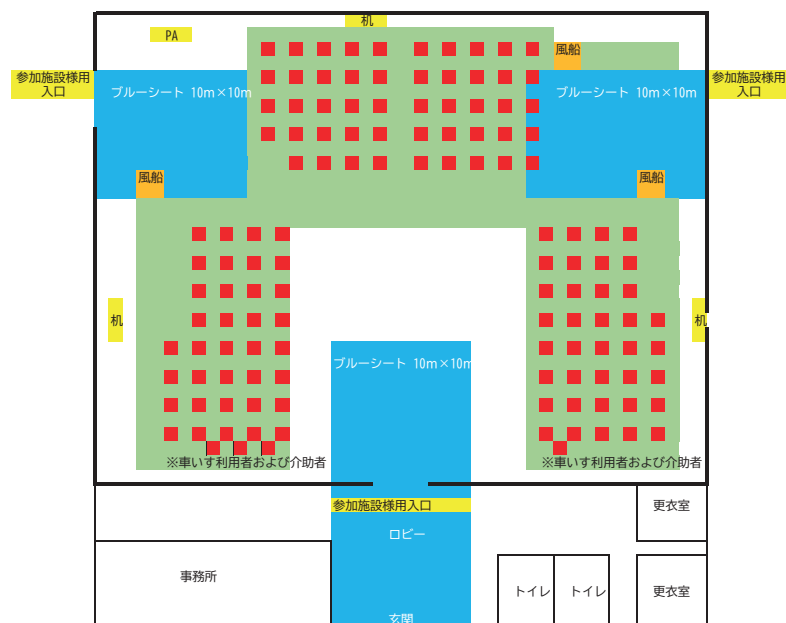
②人との距離を保つ

□参加者には全員イスを用意し着席いただく。イスの間隔は1.5 mを下限とする。

□施設と施設の間隔は、5 mを下限とする。

(5) 感染者発生時の対応

参加者、実行委員の中で、感染が疑われる方が発生した場合、速やかにナイスハート基金事務局へ連絡をいただき、関係各所へ連携の後に、自治体担当部局と打ち合わせた形で対応をする。



■参加施設との間隔5m以上 ■イスとイスとの間隔1 m50cm
■テーブルは施設ごとに設置し、参加者誘導後、各施設のほり旗を立てる。
■テーブル上に設置するモノ（アルコール手指消毒・水・マスク）※参加者全員分
※実行委員は、参加施設との距離（2 m以上）を置いて空いたスペースに整列する。

(2) ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップの実施

障害の有無に関わらずお互いが尊重しあえるように、ノンバーバル（非言語）という方法でコミュニケーションについて学ぶ場づくりをいたします。

2023 年度には、2020 年 7 月の豪雨にて甚大な被害のあった熊本県人吉市内の障害者施設での実施を計画いたします。

実施時期：2023 年 12 月

対 象 者：障害のある方、教職員、ボランティア等

ファシリテーター：庄崎 隆志氏（office 風の器主宰・俳優・演出家）

メイミ氏（漫談家・特定非営利活動法人笑顔工房 理事長）



2. 開発、普及及び育成事業

(1) 各事業報告書の発行

障害の有無に関わらず、共に楽しむことのできる手法で、様々な事業展開をしている中で、その考え方や手法を、多くの方に知っていただき、様々な活動の中で取り組んでいただけるよう、下記の報告書を発行致します。

刊行時期：2024 年 3 月

発行部数：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

発行報告書：ふれあいのスポーツ広場 / ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ



(2) ニュースレターの発行

当基金が設立以来、事業活動の基礎とし周知に努めている障害の有無に関わらず共に楽しみ、共に取り組みながら相互理解を深めていくための「ふれあいの広場」事業を、その理念や活動内容、プログラムの手法などの情報を中心に掲載した機関誌「ないすはあと」を年 4 回発行します。

発行月：6 月、9 月、12 月、3 月

発行数：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

内 容：ふれあいの広場事業に関わるプログラム内容、手法、実施の状況等

